資料－4－2

支援に基づく防災教育の実施
高瀬川大規模氾濫時の減災対策協議会の支援校で授業が実施されました！

1. 概要

○高瀬川大規模氾濫時の減災対策協議会の支援校である東北町立上北小学校において、防災教育の授業が実施されました。
○新学習指導要領から4年生の社会科で「自然災害」の授業が始まることとなり、「東北町の水害」を題材に計画され、4時間目（平成30年10月19日(金)）の授業は公開授業として実施されました。
○「小川原湖防災フォーラム」（平成30年11月15日(木)）では、学習発表会が実施され、『私たちの防災宣言』として4年生の代表者からの発表が行われました。

2.授業構成

単元名「くらしを守る」、小単元名「風水害からくらしを守る」

・１時間目：「学習問題作り」
　→上北地区に大きな水害があったこと、たびたび水害を受けているということを知る。
・２・３時間目：「公助・共助についての調べ活動」
　→水害を防ぐために、様々な公助・共助があることを知る。
・４時間目：「自助の大切さに気付かせるための話し合い活動」
　→水害から命を守るためには常に防災意識を持ち、備えておくことが必要だと気づく。
・５時間目：「まとめ〈私の防災宣言〉づくり」
　→小川原湖防災フォーラムでの学習発表

授業の目標

- 大きな水害があった たびたび水害被害がある
- 様々な公助・共助がある
- 防災意識・日頃の備え

3.授業内容

３－１学習問題づくり

１時間目は上北地区の水害について知る授業を行いました。この写真からわかることをあげさせました。

「僕は、家の真ん中ぐらいまで水が来ていることに気がつきました。」

「僕は、屋根の上に避難している人がいることに気づきました。」

「私は、津波が来てこのようになったと思いました。」

この時点ではまだ、上北地区の水害ということを知らせていません。このときの水害の様子の写真を何も説明せずに次々と紹介していきました。

このあたりで上北地区かもしれないと思った子供達がいました。次の写真で子供達のほとんどが上北地区だと気づき、大変驚いていました。

「私はまさか上北地区だとは思ってもいませんでした。」

「上北地区にこんなひどい水害があったことに驚きました。」

さらに、上北地区で過去に被害が大きかった水害についても紹介しました。

上北駅、上北中学校、運動公園、体育館の位置を知らせることで水害の広がりを感じさせることができました。

駅前の通りの写真を見せることにより、水害を身近に感じさせることができました。

「上北地区はなぜこんなに水害が多いのか疑問に思いました。」

「先生の話から小川原湖に多くの川が流れ込んでいること　小川原湖の水が流れる場所が1箇所しかなかったこと。川が途中で氾濫していることが原因であることがわかりました。」

大雨は自然現象なので防ぐことはできない。

↓

水害になっても仕方がない？

↓

水害を防ぐために何かしているはずだ！

「この後先生が、大雨が降る回数が増えている資料を見せ、大雨は自然に起きることなので防ぐことはできません。ということは水害になっても仕方ないよねといいました。」

「私は一瞬仕方ないと思いましたが少し考えてみると、水害に遭わないために何かしているはずだと思いました。」

学習問題

水害から私たちのくらしや命を守るために、だれが、何をしているのだろうか

このようにして、水害から私たちの暮らしや命を守るためにだれが何をしているのだろうか。という学習問題を作り予想させました。

また、毎時間、私たちの命は安全？という選択、判断の場面を設定しました。大安全、中安全、小安全、NO安全という四つの選択肢を用意し毎時間学習の最後に確認します。

１時間目は、どんな対策がなされているか　ということがわかっていないため、小安全という部分が多かったです。

３－２公助・共助について調べ活動

水害から命を守るために
どんなことをしてほしい？

○堤防を作ってほしい。
○海につながる場所を増やしてほしい。
○すぐに救助できるようにしてほしい。
○大雨に関する情報がほしい。

次は、２、３時間目の授業についてです。この時間は、公助・共助についての調べ活動を行いました。

はじめに水害から命を守るためにどんなことをしてほしいか、子供達に聞いてみました。

「堤防を作ってほしい」「海につながる場所を増やしてほしい」「すぐに救助できるようにしてほしい」「大雨に関する情報がほしい」という意見がでていました。

調べるためにこのような資料を作成しました。だれがどんなことをしているのかわかりやすいように子供の会話で資料内容を説明しているものです。

詳しく見てみると、放水路の工事、堤防の工事　町の作成のシミュレーション、高瀬川河川事務所ホームページにある防災情報、国、県市町村　地域の協力による堤防の見回り点検や訓練、避難情報を出すための流れ、水害に備えた備蓄、ハザードマップの作成、水害対策会議、消防団の方や河川事務所の方のお話しを載せてあります。

子供達はこの資料を調べることにより水害から私たちの生活や命を守るために多くの人が協力しながら関わっていることを知り大変驚いていました。

「私たちはもし水害が起きた時の訓練などをしていることを知り安心だと思いました。」

「僕は海につながる川が一つしかないことを知って、海につながる川を増やしたり、いくつかの川をせき止めてほしいと思いました。」

「たくさんの公助・共助があることを初めて知ってとても安心しました。」

「公助・共助について調べたことでほとんどの人が、大安全　中安全となりました。」

「でも小安全、NO安全の人がいて、どうしてなのかなと思いました。」

この時点で子供達にそれぞれの理由をまとめさせ、次の時間に話し合いすることを予告しました。

３－３自助の大切さに気づかせるための話し合い活動

公助・共助があるから
私たちの命は安全？

４時間目です。話し合いのテーマは公助・共助があるから私たちの命は安全？です。このテーマで話し合うことにより、公助・共助のみに頼るのではなく、自ら防災意識を持ち備えておくことが大切である。ということに気づくことをねらいとしています。

まずは、前の時間に考えておいた理由を発表させました。

「私は大安全でした　その訳は堤防整備などをしているからです。」

「僕は中安全でした。その訳は堤防が崩れるかもしれないからです。」

「僕は中安全でした。その訳は市から避難指示が出ないかもしれないからです。」

＜大安全・中安全＞	＜小安全・NO安全＞
○水害から命を守るために、協力、努力している。 ○やってほしいと思ったことが全てやってある。 ○公助・共助が十分にある。	○シミュレーションなどの予想が外れたら困る。 ○公助・共助があっても絶対に安全とは言い切れない。 ○堤防などが壊れる可能性もある。

はじめは公助・共助について十分調べをしたので大安全、中安全が多数で、公助・共助の備えがあるから安心であるというものでした。

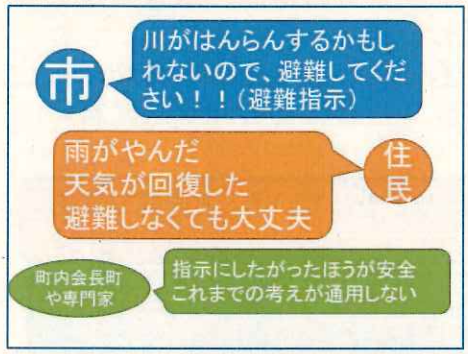
少数の小安全・ＮＯ安全の意見では、もっと公助・共助を強化してほしい。公助・共助だけでは不十分だ。というものでした。

理由を聞き合った後に、再度判断させる場面を設定しました。すると、公助・共助だけでは不十分だという意見に納得した子が多く、大安全だった子供の多くが中安全、小安全に意見を変えました。

（新聞記事より）

938人避難指示行動は○○

そこで、みんなが安全になるためにはどうしたらよいのか考えさせ、自助の視点が出てきたころに、今年８月の新聞記事を見せて考えさせました。これは避難指示に従った住民がわずかしかいなかったという風なことを記事にしたものです。



内容は、市が避難指示を出したが、雨がやんだから、天気が回復したからという理由で避難しなかった。これに対して専門家の方が、雨がやんでも増水する場合があるので、指示に従ったほうが良い。短時間で大雨が降り避難できなくなる場合もある。これまでの考え方が通用しないといったものです。

（新聞記事より）

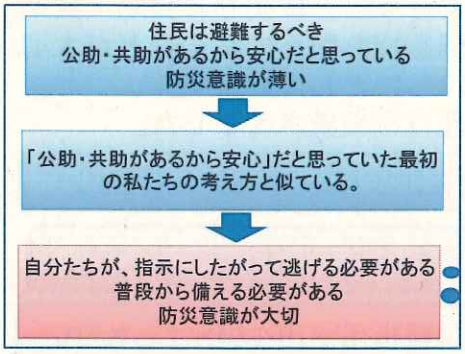
938人避難指示行動は9人

みなさん、避難指示に従った人がどれくらいいると思いますか。なんと９人だったそうです。子供達もこの少なさに非常に驚いていました。

「私だったら避難します。なぜなら避難しなかったから命を落とすというのはいやだからです。」

「私だったら避難します。なぜなら今雨が降っていなくても水は上からどんどん来るので時間がたてば水がどんどんあふれてくる可能性があると思うからです。」

中には大丈夫そうなので避難しないという人もいましたが、専門家の人が急に水が増えることもある。気づいた時には避難できなくなる可能性もあると言っているので、やはり避難した方がいいという意見になりました。



この記事を扱ったことにより、ここの住民は公助・共助があるから安全だと思っている。最初の私たちの考え方と似ている。ということに気づき、自分たちが指示に従って逃げる必要がある。いつでも備えておく防災意識が大切だという自助の大切さについて考えるようになりました。

ここで、だいぶ子供達の考え方、安全だと思っていた子供達の考え方が揺さぶられて多くの子供達が小安全だとかちょっと不安だという方に変更していきました。

３－４まとめ　「私の防災宣言」づくり

最後に　まとめとして私の防災宣言というものを作りました

「私は昔小川原湖の水があふれたということが一番印象に残りました。私の防災宣言は、避難指示が出たらすぐ避難します。自分で自分を守ります。避難時には大切なものを準備します。」

「私は新聞で避難指示が出たのに避難した人が9人しかいなかったということが一番印象に残りました。私の防災宣言は、本当に必要なものだけ入れて避難準備をします。まえもってシミュレーションで今の情報を確認します。地域の人と水害の確認をしたり自分たちで何かできることはないか考えます。」

「私は、公助・共助・自助のことについて勉強したことが一番印象に残りました。私の防災宣言は、自分で行動をします。避難しても良いように避難道具を用意します。高いところに上って命を守ります。」

「僕は、国、県、町が協力しているのが一番印象にのこりました。僕の防災宣言は、防災意識を高めます。防災グッズを用意します。避難勧告が出たら避難します」

「僕は、昭和33年の水害だけではなく、ほかにも水害が上北地区であったことが一番印象に残りました。僕の防災宣言は、前もって避難に必要な物を準備します。市などの言うことを聞くようにします。なるべく家電製品でないものを準備したいです。」

「僕たちはこの勉強から学んだことを忘れず、いつ水害が来ても大丈夫なように常に防災意識を持ち、備えていきたいと思います。」

4. 高瀬川河川事務所支援

教材作成への協力

○教材作成の基礎資料の提供
①他河川の指導計画案、教師用解説書、発問及び板書計画案)
②高瀬川関連の写真データ(洪水写真等)
③その他防災関連資料

○防災に関する関連機関や担当者の紹介
○教材作成への協力(情報提供、ビデオ作成協力)
○授業での助言

授業での助言

防災教育取り組みの流れ

H29.12.7　当初打合せ
・指導計画案、教師用解説書、発問及び板書計画案について他河川の事例で説明。
・教材用素材(写真等)を持参

H30.4.25　実施時期、授業にあたっての作業の開始時期の打合せ

H30.7.26　今後の取り組みについて打合せ（対象学年、授業の実施時期）

H30.8.21　教材用の追加資料を提出

H30.10.2　使用教材の提供を受ける。

H30.10.19　公開授業

H30.11.15　小川原湖防災フォーラム